

高精度でリニューアル！ ジャガイモ黒あし病の診断法とリスク対策

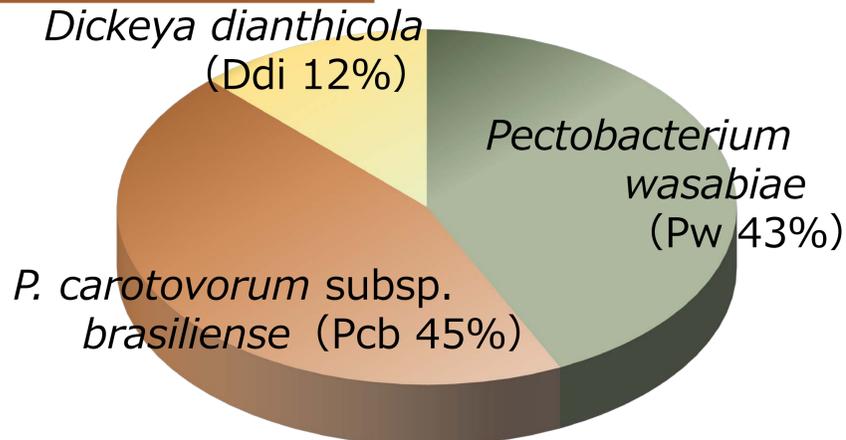
概要 Abstract

- 病原細菌は4菌種 (Ddi、Pw、Pcb、Pa) と同定。近年の発生はPwとPcbの2菌種。
- 「いも」や「土壌」から病原菌を検出できる高精度診断法を開発。
- 種いもの通風乾燥処理は保菌低減に有効。
- 種いも保菌リスクと対応の考え方を提示。



黒あし病の腐敗・倒伏

成果 Results

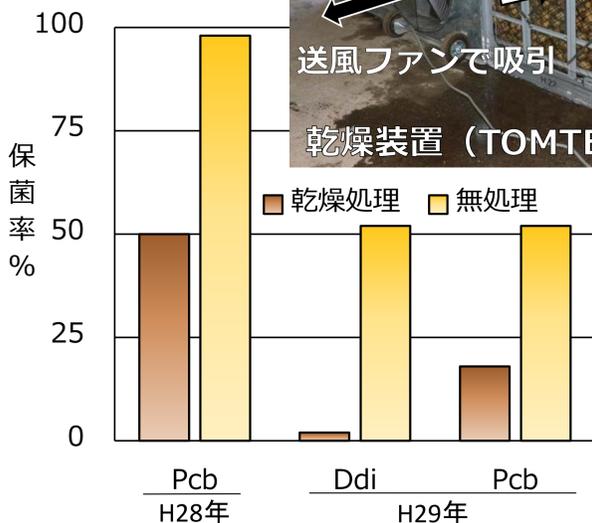
**P. atrosepticum*(Pa)の発生はない

近年の発生菌種



送風ファンで吸引

乾燥装置 (TOMTEN社 空っ風君)



通風乾燥処理による 種いも表面保菌の低下

増菌培養

↓ 新增菌培地LEMで培養
培養容器はラミジップが便利



検定いもを増菌培地LEMで培養

DNA抽出

遺伝子診断 (PCR・電気泳動)

マルチプレックスPCRの採用



電気泳動で判定

イモや土壌の高精度診断法

種いも・切断刀の消毒

必ず実施

- 表面保菌を低減 (内部保菌・傷いもには効果不十分)
- 接触伝染を低減

催芽処理

★ 過度に催芽しない

- ★ 過度の催芽による芽の損傷で保菌リスク大

発病株の抜き取り

新しいもを含めて搬出

- 残存するとリスク大

茎葉処理

★ 発生ほ場では
避けた方がいい

- ★ リーフチョッパー処理は保菌リスク大

収穫・選別

丁寧に扱う 選別除去

- ★ 傷部位は保菌に好適
- ★ 腐敗いもの混入は保菌リスク大

収穫いもの乾燥

★ 通風乾燥装置を活用

- 表面保菌を低減

★ → 本試験の成果

普及 Dissemination

各工程における保菌リスクと対応の考え方

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部 生産環境グループ
0155-62-2431
tokachi-agri@hro.or.jp

- ジャガイモ黒あし病の診断と種いも生産現場におけるリスク低減対策として活用！

本試験は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(27005C) および
北海道馬鈴しょ生産安定基金協会 生産流通振興事業 の援助により実施しました。